

## NEWS RELEASE

日本板硝子株式会社  
2019年10月9日

### 日本板硝子の温室効果ガス削減目標が SBT イニシアティブの認定取得

日本板硝子株式会社（東京都港区、代表執行役社長兼CEO森 重樹、以下NSG）が本年8月に策定した2030年までの温室効果ガス削減目標が、パリ協定が目指す「産業革命前からの気温上昇を2°C未満に抑えるための科学的根拠に基づいた目標」としてSBTイニシアティブ（SBTi）に認定されました。

SBTiは、CDP（旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）およびWWF（世界自然保護基金）による共同イニシアティブで、気候変動リスクの低減に向けて企業に対し、科学的知見と整合した温室効果ガス削減目標の設定を推進しています。

今回認定された目標で、NSGは温室効果ガス排出量（Scope1 および Scope2\*）を2030年までに2018年対比で21%削減することを目指しています。NSGは、過去3年間に実施されたエネルギー使用量及びCO<sub>2</sub>排出量の削減対策により、ガラス生産量1トン当たりのCO<sub>2</sub>排出量を約5%削減しています。

気候変動リスクの低減はNSGが貢献可能な事業機会と位置付けており、以下の施策を推進しています：

- ・ガラス製造工程におけるエネルギーの重油から天然ガスへの切り替え
- ・ガラス製造工程におけるCO<sub>2</sub>削減対策の実施（照明のLED化、インバーター設備導入、廃熱利用等）
- ・再生可能エネルギーの使用比率拡大
- ・省エネ・創エネ効果の高いガラス製品によるCO<sub>2</sub>排出低減（真空ガラス、太陽電池パネル用ガラス等）

NSGは、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減と、革新的なガラス製品の提供により、気候変動リスクの低減に貢献してまいります。



\*Scope1: 事業者からの直接排出（製造工程における燃料の使用等）  
Scope2: エネルギー起源の間接排出（製造工程における購入電力等）

日本板硝子株式会社（NSGグループ）は、建築用・自動車用ガラスおよび高機能ガラス製品の分野における主要メーカーです。1918年に創業し、グループ従業員数は約27,000人。世界各地に主要な製造拠点をもち、100か国以上で製品の販売を行っています。<http://www.nsg.co.jp>

<お問い合わせ>  
広報部：03-5443-9477